

本取り組みは、大分県日田市大山町において、2013年に完成した大山ダム建設に伴って設置されたビオトープです。ダム建設地である日田市は、古くからゲンジボタルの里として知られており、環境保全に配慮したダム工事を推進するという理念に基づき、本ビオトープが設置されました。評価された主なポイントは以下の通りです。

ホタルの生息環境づくり

指標種であるゲンジボタルの生息に適した環境を再生するため、近くを流れる沢水を利用し、蛇行する「せせらぎ」や瀬と淵を設けた池が配置されています。植生の管理や水質のモニタリングを継続して実施しており、毎年ホタルの発生が確認されています。

地域の資源を活用

植栽したエノキやツルヨシなどの植物は、大山ダムの周辺から移植しています。また小川の石積みには、工事で発生した現地の石を再利用しています。



評価対象事業の位置



池と水辺の植生



小川にはゲンジボタルの食物となるカワニナが生息